

うぶすな

# きたの産土の会よりご挨拶



2020年  
創刊号

産土神とは、その地に生育する作物、植物、河川等の自然物や、その地に住む人々の生活全般に密接に関わる働きをしておられる神様のことで、す。当地区にお住いの高齢の方々が、当地区の畑で農作物を育てて収穫するといった一連の活動にふさわしい言葉ではないかとの思いから、当会の名称を「きたの産土の会」とさせていただきますました。

当会の活動目的と活動概要(案)は以下のとおりです。よろしくお願いいたします。

- 目的① 地域の高齢者の方々が、できるだけ長く元気でいきいきと生活できると
  - 目的② 地域の農的環境を守ること
  - 目的③ 自然の中で世代を超えた地域の人たちのつながりの場となること
- 活動概要(案) まずメンバー登録をしていただきます。肥料代、苗代等を含んだ若干の活動費用(丹会費)を徴収いたします。北野郵便局近隣に準備した指定農園に集合し、農作物を育てます。週一回、九十分、ワンクール六か月程度。採れた農作物はメンバーで分け合ったり、試食会を開いたりします。なお当会は、単に野菜作りを楽しましただけではなく、前記の目的①を重要視しておりますので、理学療法士や看護師の協力のもと、認知症、介護予防に効果のある活動内容にしていくことを考えております。

## 他県での取り組み「豊中めぐり」

大阪府豊中市では、農業を通じて介護予防を目指す都市型農園「豊中めぐり」という活動が行われている。農園を拠点に、人と人がふれあい、認め合い、支え合う共同空間を創造することで、地域の人々の社会参加を促し、薄くなっている今の地域社会のつながりを結び直すことがその目的だ。農業の英語表記であるアグリカルチャーから三文字を取り、「豊中めぐり」と名付けられたそうである。

これは、単に協働して野菜を作るだけの活動ではない。野菜作り勉強会、収穫祭、近隣住民との餅つき大会など、農業に関連した様々なイベントも頻繁に行われており、しかも驚いたことに、これらは、参加者自らが企画運営しているのだ。「豊中めぐり」の活動が、年を追う毎に広がり続けている秘密は、このようなどころにあるのであろう。

また、老人会や民生児童委員会、福祉委員会等の地域団体も参画し、野菜を子ども食堂に提供したり、収穫したスイカで子供たちとスイカ割りを行ったりと、積極的に多世代交流の推進もしている。

地域の人々が農業を通じて体を動かしながら、お互い様の助け合い、見守り合いをしたり、自分達で楽しい企画を立ち上げいろいろな人との交流の機会を持つたりすることができる「豊中めぐり」の活動は、介護予防の取り組みとしては大変有効なものであるとして、現在、全国の自治体からの注目を集めている。

岡崎市社会福祉協議会(島)



### こんな状況下だからこそ！

矢田ファミリー農園・矢田哲臣代表からの、農業を通して認知症 介護予防のために何かできないかという提案を具現化すべく、矢田様、社会福祉協議会、はしめ包括の三者にて第一回目の会合を行ったのが三月四日のこと。その後、数回の会合を経て、名称、活動の概要、説明会の場所や日時等が順調に決まっていたが、新型コロナウイルスの世界規模での蔓延拡大と、それに伴う緊急事態宣言により、予定していたすべての活動が実施できない状況となってしまう。『このまま企画倒れで終わってしまうのか』と皆が落胆する中、矢田代表の、今僕らでできることから始めていきましょうという頼もしい一声を受け、状況が沈静化するまでの間、関係者のみで産土の活動を進めていくこととなった。その詳細については次号にて紹介したい。

産土の会に関してのお問合せ、参加申し込みに関しては下記まで

**はしめ地域包括支援センター**  
TEL 33-5610 FAX 33-5605

